

經濟論叢

第150卷 第2・3号

哀 辞

故岡部利良名誉教授遺影および略歴

フランス18世紀のプロテスタント……………	木崎喜代治	1
1950年代住友金属工業の銑鋼一貫企業化過程…	張紹喆	25
フォードにおける経営再建の過程と合理化……	平野健	39
ローカル・ミニマム論の検討（1）……………	李昌均	58
アメリカにおけるマーケティングの生成（1）…	栗村俊夫	82

研究ノート

社会主義と商品経済……………	八木紀一郎	101
----------------	-------	-----

追 憶 文

人情の人岡部利良先生……………	河合信雄	109
岡部先生を偲びて……………	中居文治	111

学 会 記 事

平成4年8・9月

京都大学経済學會

哀 辞

本学名誉教授 岡部利良先生は 1991年11月27日に逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

先生は 1932年京都帝国大学経済学部をご卒業後、東洋経済新報社編集局での勤務を経て、1937年京都帝国大学大学院に進学され、1944年建国大学助教授に就任されるも、敗戦後、1年半余にわたるシベリア抑留を経験されて、復員後、1947年京都大学経済学部講師となられ、助教授、教養部教授を経て、1960年経済学部会計学講座担当の教授に就任され、1969年にご退官になるまで、多くの学生、大学院生の指導に尽力されました。またこの間、経済学部評議員、経済学部長等を歴任されて、京都大学の管理運営に貢献されました。

学外においても、日本学術会議会員、日本会計研究学会常務理事、京都府地方労働委員会会長等として、学術振興そして社会発展に貢献されました。本学ご退官後は、1969年から1986年まで龍谷大学教授に就任され、この間、同大学経営学部長、社会科学研究所長として、同大学の発展に寄与されました。

先生の御研究は、企業利益概念をめぐって、会計計算測定の内容を個別的に克明に検討し、会計学上の資本と利益の区別、損失の研究、残余利潤としての企業利益論が主たる研究分野であり、その中でも株式プレミアム利益説批判は、とくに高く評価されるもので、学界に岡部会計学としての不動の地歩を固められました。

先生の遺されたすぐれた御業績とご指導を偲びながら、当学会のためのひとかたならぬお力添えに謝意を表するとともに、わたくしたちの深い哀悼のしるしに、この追悼号を捧げます。

1992年8月

京都大学経済学会



故岡部利良名誉教授遺影

故岡部 利良先生御略歴

明治38（1905）年 4 月	北海道函館市に生まれる
昭和 4（1929）年 4 月	京都帝国大学経済学部入学
昭和 7（1932）年 4 月	東洋経済新報社に入社
7 月	京都帝国大学経済学部学士試験合格
昭和12（1937）年 3 月	東洋経済新報社依願退職
4 月	京都帝国大学大学院（経済学部）入学
昭和13（1938）年 5 月	京都帝国大学経済学部副手
昭和19（1944）年11月	京都帝国大学大学院退学
11月	建国大学助教授
昭和20（1945）年 5 月	応召，満洲第84部隊に入隊
昭和22（1947）年 5 月	帰還・復員
10月	京都大学経済学部講師
昭和23（1948）年12月	京都大学助教授
昭和27（1952）年10月	京都大学教授
昭和38（1963）年 4 月	京都大学経済学部長（昭和39年 1 月まで）
昭和44（1969）年 3 月	京都大学停年退官
4 月	京都大学名誉教授
4 月	龍谷大学教授
9 月	龍谷大学経営学部長（昭和45年 3 月まで）
昭和61（1986）年 3 月	龍谷大学退職
平成 3（1991）年11月	御逝去